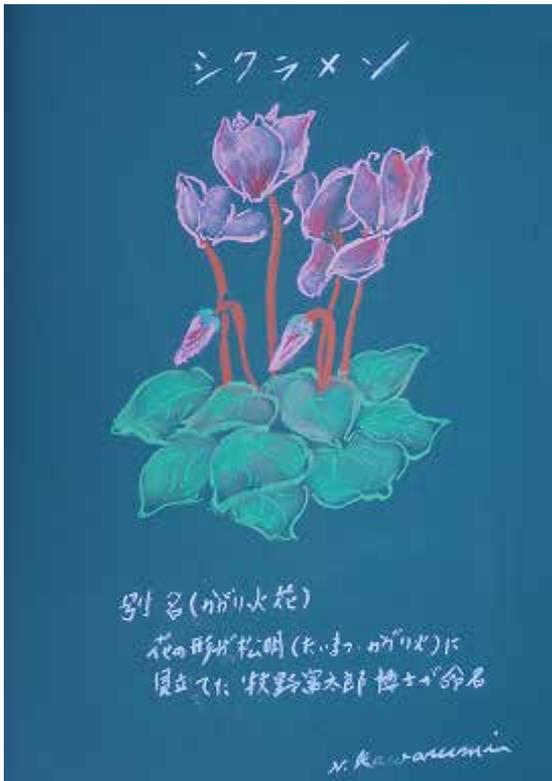


自然のたより 12月

<0歳から100歳の方まで、みんなが先生です！>



シクラメンは、ギリシャからシリア地方原産のサクラソウ科の多年草で、日本には明治の初めに渡ってきました。地下に塊茎（かいけい）と呼ばれる平たい形をしたイモ状のものがあり、その外側はコルク質で包まれています。シクラメンという名は、「まるい」という意味で、この塊茎の形からきています。和名のカガリビバナは、花の形を『かがり火』に見立てたものです。他の別名にフタノマンジユウがありますが、この名もまんじゅうのような塊茎の形からきています。

日本の植物学の父と呼ばれた牧野博士は、一緒に採集に出かけたお弟子さんから野草の名前を尋ねられると、「そもそもこの種は・・・」と語り始め、その解説は延々と終わらなかつた。というエピソードが残されています。カガリビバナの解説はどのようなものだったのでしょうか？聞いてみたかった。と果てしない空想をしてしまいました。

※この欄は、あかね書房刊「牧野富太郎植物記4」を参考にしました。

今、ふれあいの村では・・・

十一月二十四日、関東甲信越地方には真冬並みの寒気が入り、山沿いを中心に大雪になる見込み、とニュースが流れました。気象庁は東京都心で初雪を観測したと発表し、東京で十一月に初雪となったのは、一九六二年以来の五十四年ぶりとのこと。山間部にあるふれあいの村でも雪景色が見られました。三枚の写真の撮影日は、数日しか違いません。今年の気象状況でまたひとつ記憶に残る出来事です。



雪をまどうケヤキ (ふれあい広場)



イロハモジ (上)、ヤクソウ (下) (駐車場周辺)

足柄自然観察会 12月4日(日) 10:00~12:00
 テーマ: 冬芽と面白い顔の葉痕、ひつつき虫
 冬の野鳥 (混群シジュウカラ、エナガ、メジロ)
 ※ファミリーコミュニケーション運動の一環として、毎月、第一日曜日に開催
 ※申込み・問合せは電話などで、お気軽にどうぞ。

神奈川県立足柄ふれあいの村 (南足柄市広町1507)
 指定管理者: 足柄グリーンサービス・関東学院グループ
 所管課: 神奈川県教育委員会教育局支援部
 子ども教育支援課
 電話: 0465-72-2010 FAX: 0465-72-2013
 URL: <http://www.ashigara-fureai.com/>

ふれあいの村で、新発見？

十一月のはじめ、退村間際の小学四年生が事務所に「これはなんですか？」と聞きにきました。

それは、ゴルフボールより少し大きいくらいの黒っぽい塊で（写真上）、後日、本などで調べ、『イボセイヨウシヨウロ』ではないかと回答をしました。

シヨウロは漢字で『松露』と書き、キノコの仲間になります。名前に松が付くくらいなので、松林で見つかることが多いそうです。普通は地中に浅くもれた状態で発生しますが、地上に出てくることも多いので、ふれあいの村の松の樹の下で、発見されたようです。西洋料理に使われる高級食材の『トリュフ』も仲間です。内部を見るために、半分に割りましたが（写真下）とてもくさい！

その後、聞いていた発見場所の近くを歩いてみましたが、もう見つけられませんでしたが、『なぞの物体』は、わたしたち職員もはじめて見るものでした。見つけたものに関心をもち、調べようとする四年生のおかげでふれあいの村の中にはまだまだ知らないことがたくさんあることがあらためて分かりました。



★フィールドワーク★

自然の生活とは？

野外を探検・調査・観察することをフィールドワークといいます。

11月の終わりに降った雪は、12月1日現在まだ一部に残っています。

生き物を見つけるのは難しい時期ですが、村の周辺で眼をこらすと、活動中の姿に出会うことが出来ました。村の駐車場近くで日光浴中のアカタテハはカメラを近づけても、ビクともしませんでした。あまりの寒さに動作が鈍くなっているのかもしれませんが。アカタテハやウラギンシジミは、成虫の姿で越冬する蝶として知られています。日本にいる約270種類の蝶の大部分は卵か幼虫、サナギで冬を越しますが、「成虫越冬型」は約1割いるそうです。

ニホンカナヘビは村の提携農家さんの畑で、芋掘り作業中に見つけました。

発見者は「死んでいる！」と一瞬驚き、彼？の眠りを少しだけ邪魔してしまったようです。



残雪（11月30日撮影）



ウラギンシジミ



カマキリの卵



森の大地祭(11/20)に来場した、ジョウロウグモ



アカタテハ



ニホンカナヘビ（冬眠中）



ひつつき虫（キンミズヒキ）